

学友館特別展

水彩連盟秋田支部 美郷町展

8月26日から9月17日の期間で「水彩連盟秋田支部 美郷町展」が美郷町学友館で開催されました。この展示会は水彩連盟秋田支部としては初開催となるもので、会員の作品46点が展示され、連日多くの方が訪れました。また、9月2日と9月16日にはギャラリートークも行われ、会員自らが展示されている作品の解説を行いました。



美郷町の教育を学ぶ

タイ王国の私立学校視察団が来町

9月5日、タイ王国の「バンコク・クリスチャン・カレッジ」の視察団が美郷町を訪れ、六郷小学校の授業を視察しました。視察後に行われた懇談会では、六郷小学校の授業スタイルへの質問が相次ぎ、意見交換が活発に行われました。視察団は秋田県内の複数の学校を視察するために来県し、そのうちのひとつとして六郷小学校の視察が行われました。

後三年秋の陣in金澤

9月8日、道の駅雁の里せんなんを会場に「後三年秋の陣in金澤」が開催され、町内外から多くの観客が集まりました。

当日は金澤八幡宮梵天唄からはじまり、美郷ジャズオーケストラや菖蒲太鼓保存会による演奏など、さまざまなステージイベントで会場は盛り上がりました。また、初めての催しとして納豆巻き作りが観客参加のもと行われ、後三年合戦が1087年に終結したことにちなみ、1,087センチメートルの納豆巻きが作られました。



美郷町で初開催!

サイクルロードレース 美郷ラベンダーカップ2018

9月9日、サイクルロードレース「美郷ラベンダーカップ2018」が美郷町ラベンダー園をスタート・フィニッシュ地点として開催されました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、県内外から多くの選手が参加し、1周9.6キロメートルの周回コースを駆け抜けました。また、コースの沿道では地域の方々が選手を応援する姿も見られ、地域が一体となって大会を盛り上げました。



秋田の元気を美郷から

美郷カレッジ

平成30年度後期の美郷カレッジが開催され、9月8日には画家の大小島真木氏が「生きること、旅の途上。」と題して講演されました。講演では、これまで大小島氏が手掛けてきた数々の作品を紹介するとともに、「人生という旅の中で多くのことを学びながら、さまざまなことを自分なりの方法で絵に刻んでいきたい」と話されました。

また、9月15日にはトヨタ自動車の佐竹伸悟氏とタイ王国出身のプタワン キティファタノタイ氏が「Amazing Thailand(アメイジング・タイランド)〜タイ文化と人柄と微笑み〜」と題して講演されました。講演では、タイ王国の言葉や地域などの基本情報のほか、「謝罪の気持ちも笑顔で表現する」などのタイ王国特有の文化についても話されました。

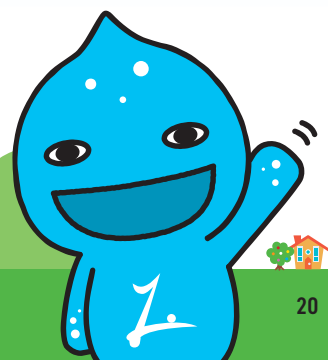
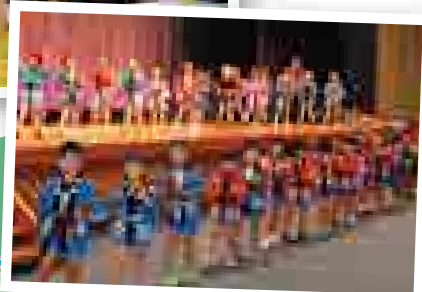


▲大小島 真木氏
▶(左)プタワン キティファタノタイ氏
(右)佐竹 伸悟氏

いつまでもお元気で

美郷町敬老会

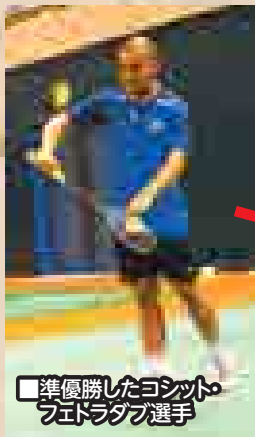
美郷町敬老会が各地区で開催され、9月15日は美郷町住民活動センターと美郷町中央ふれあい館で、9月16日には美郷町公民館でそれぞれ行われました。ことしは満75歳以上の方3,943人が招待されました。各会場では、美郷町長寿番付の発表や、敬老会への新規招待者の方々が誕生した昭和17年・18年の出来事が紹介されました。また、「健康で長生きするための運動のコツ」と題した健康講話や園児たちによるお遊戯が披露され、来場者の皆さんは楽しまれている様子でした。



タイ王国との交流

ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2018 バドミントン選手権大会でコシット選手が準優勝!

トレーニングキャンプに参加した選手のうち、コシット・フェトラダブ選手が男子シングルス準優勝という素晴らしい結果を残しました。世界ランキング26位で今大会を迎えたコシット選手は、1回戦で世界ランキング2位の中国人選手を、3回戦では2016リオオリンピックの金メダリストである中国人選手をそれぞれ破り、自身初の決勝進出を果たしました。



■準優勝したコシット・フェトラダブ選手

タイ王国バドミントンナショナルチームが 美郷町でトレーニングキャンプを行いました

9月6日から4日間の日程でタイ王国バドミントンナショナルチームが来町し、美郷総合体育館リリオスでトレーニングキャンプを行いました。トレーニングキャンプを終えたタイ王国バドミントンナショナルチームは、9月11日から東京都で開催された「ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2018バドミントン選手権大会」に出場しました。



■タイ王国バドミントンナショナルチームと北都銀行男子バドミントン部

紅葉が始まる時期になりました。一口で紅葉と申ししても、実は葉の色によって赤が紅葉、黄色が黄葉、褐色が褐葉と言うそうです。いずれ、単色であれ混色であれ「紅葉」は美しいわけですので、この時期ならではの美しさ、できる限り堪能したいところです。

そして、別の「堪能」も本格化です。そうです、味覚です。新米の香りとつや、楽しみたいと思います。ちよつと遅れて、里芋はねぎとぎのこで芋の子汁。これも最高。また、大根はおでんに。あつあつに辛子をつけて、きゅつと一杯。いいですねえ。太つた。

当たり前のこうした味覚、私たちは漢字で「美味^{うまい}」と表します。が、味覚に「美」という字を使うあたり、日本人の美意識の広さと感じます。

こうした日本人の美意識ですが、やはり、日常生活すべてを美の対象に見ていたのだろうと思えます。でなければ、日常生活における味覚の「美味」も聴覚に付随する「美声」も、言葉として存在しなかつたと思います。考えれば考えるほど、「実に面白い」(ガリレオシリーズ)ご覧の方はご存知のセリフ。借用!と思うところです。

その日常生活における用具の「美」を感じ、評価していいこう

民藝の心

COLUMN WINDS

コラム 風

美郷町長
松田知己



敬老会にてあいさつをする松田町長

とするのが「民藝」です。民衆的工芸から命名されたと言われています。思想家で民藝運動の提唱者柳宗悦は、職人の手で制作された生活用具には用に即した健全な美が宿っていると、手仕事の文化を守り育てることが生活をより豊かにする旨、主張しております。

そして、かねてより美郷町には、わら細工、あけびづる細工、竹細工という日常生活に根ざした手仕事があります。まさに民藝です。こうした手仕事を今後大切にしたいという想いを込めて、町では学友館において今月6日から、「民藝のモノ」と思想「暮らしの中の美を探る」と題した特別展を開催します。みなさんには是非ともご覧いただき、日常生活にある美に意識を高めていただくとともに、美郷の手仕事であるわら細工等について、継承していこうとする意欲や機運が高まることを心から期待したいと思います。

民藝の心は、日常生活への見方と評価を研ぎ澄ますと思えます。